

「さんか・さろん」ニュース

2019年10月15日

「90万都市世田谷の挑戦」

保坂展人さん（世田谷区長）



世田谷区は人口916,592人(2019年10月現在)、東京23区で一番の人口を抱え、2位の面積を有します。吉田松陰、井伊直弼に関する史跡がある一方、商店街数は132と23区中第2位。公園数419、路面電車2本、NPO法人数509と住民の力が強いところでもあります。昔からの「ぼろ市」で知られ、最近では下北沢が外国人や若い人に古着文化のまちとしても注目されています。

保坂区長は、中学2年生(14歳)の時に学園紛争に影響を受けて社会運動にデビュー。有名な内申書裁判を市民運動に支えられたことで、様々な市民運動に関わってこられました。1996年から2009年まで衆議院議員を3期11年務めた後、2011年4月より世田谷区長に、現在3期目。「参加と協働」を合言葉に、住民参加のまちづくりを進め、子どもや若者支援に精力的に取り組んでおいでです。今回はその中で実際に実践してきたことを、力強く語られました。

.....

■5%改革

2011年、世田谷区長に初当選した時に、最初の職員訓示で表明した言葉です。支持者はガックリ、職員はホッとしたと思いますが、前年の5%を改革し続けていくと8年目は33.7%を変革することになります。華々しく改革を表明して、華々しくコケる政治家が多い中、5%なら確実にできると思い、こういうやり方をしてきました。

■総合支所とまちづくりセンター

区内は世田谷、北沢、玉川、砧、烏山の5つの地域に分けられており、各地域に行政機構の一部として「総合支所」があり、その下に28の「まちづくりセンター」があります。多すぎるというご意見もありますが、区民の身近に区役所があることで「参加と協働の区政」の中核となっています。ここを拠点に「車座集会」「テーマ別意見交換会」「無作為抽出型ワークショップ」を行って、区民の意見をボトムアップ型で区政に取り入れる工夫をしています。

区に意見を言いに来る方は大抵が「陳情」と「苦情」です。「車座集会」「テーマ別意見交換会」「無作為抽出型ワークショップ」は2時間ずつ。1人3分、20人×28カ所で色々話をさせていただきます。560人分の意見を聞くと区民が区に何を望んでいるのかがわかってきます。このようなやり方で、住民の意見を直接すくいあげるようにしています。子ども達とやることもあります。

■身近な福祉の相談窓口

高齢者・障害者・子育て世代などの困りごとの相談で、サービスが重複していたり、どこに相談すれば良いのかわかりにくいとのことだったので、この3者を一体化し、「福祉の相談窓口」をつくりました。地域包括支援センターと社会福祉協議会を1つ

にしようとして5年かかりましたが、2016年7月に27地区で実施できました。

その甲斐あってか、男性の寿命が国内で40位から4位へ、女性が8位へ伸びています。一方、要サポート期間が延び、依存が増えているという悩みもあります。

■地域活動団体の活動場所の確保

空き家活用の「マッチング」と「モデル事業」では築85年の古民家をミニ公民館にしたり、地域共生のいえ「えんがわぼっこの家」(介護者のお休み処で2014年11月開設)、「ぬくぬくハウス」(年齢に限らない多世代交流の場としての地域食堂で2015年9月開設)などを運営しています。

■待機児童解消の取り組み

多くの自治体では待機児童数をゼロにするために数字の操作が行われていますが、世田谷区では操作していません。認可保育園の開設も子ども本位でなければ認可しないという厳しさです。

保育園を運営するには、広い土地と多くの資金が必要ですが、資産運用としてマンション経営を考える地主さんたちに「地域に密着した社会貢献・子育て支援」として保育園に土地や建物を提供することを呼びかけ、軌道に乗ってきました。現在、1000件ほどの登録があります。チラシやポスターで不動産情報を収集しています。

保育園建設となると反対運動が起こりがちですが、世田谷区は「子ども・子育て応援都市宣言」を2015年3月3日に行い、「子ども・子育て応援都市ワークショップ」も実施しています。

■産後ケアセンター桜新町

区ではフィンランドに学んで「ひとつな

がりの子育て支援」として、妊娠・出産・子育てを支援しています。とりわけ出産については、実家が近くにいる人が多く、45%は相談者もないということで2008年3月に「産後ケアセンター新桜町」を開設しました。

助産師さんの指導を受けながらデイケアが1日2,060円、実家代わりに1泊6,400円で宿泊することもできます。これは、建築基準法、旅館業法、消費税課税の規制緩和を利用して実現し、社会福祉事業にするように国へも働きかけています。

■若者支援

2013年4月に組織の子ども部に「若者支援担当課」を、2014年4月に子ども部の名称を「子ども・若者部」に変更しました。世田谷区の将来ビジョンを語り合う「保坂区長と語る！中・高生との意見交換会」を開いて「青少年交流センターではこんなことをしたいです！」という若者の声を直に聞く機会を設けました。若者を地域の担い手にするのが目的です。また、若者への居場所・活動の場を提供するために野毛「青少年の家」をリニューアルオープンしました。グループ研修会などで1泊400円で泊まれます。

区長になって面白いなと思ったのは、私が考えている以上に政策がさらに先へ先へと



展開していく点です。2019年には「若者たちによる建設構想委員会」のアイデアを基に希望丘青少年交流センターをオープンしましたが、「若者の施設なら設計に若者を巻き込んだらどうか」と職員が考えてくれて実現しました。

ここは当初利用者層を高校生大学生と予想していましたが、実際には小学3、4年生から利用があります。マンガや楽器や自習スペースが使い、月に7000人が利用する人気施設となっています。また2階には不登校生徒を受け入れる「ほっとスクール希望丘」が併設されています。公設民営のフリースクールでNPOの「東京シューレ」が運営しています。

その他、いじめが収束するようにサポートする「せたがやホッと子どもサポート」や18歳で児童養護施設を退所する若者への住まいの支援や返済不要の給付型奨学金制度を新設するなどの支援もやっています。この奨学金事業は2019年9月30日現在、1134件の方々から97,473,606円の寄付を受領していて、毎年1000万円くらい支出しています。子どもの権利条約や子どもの人権を大切にしています。

■パートナーシップ宣言の取組み

最近では同性カップルからパートナーの病気に伴う入院や家を借りる手続きなどで区長からの証明書が欲しいとの要望があります。民法には同性婚のことしか書いてないので、遺産相続の時に裁判沙汰になったりする懸念があり、実施するのが難しかったのですが、当のカップルに「パートナーシップ宣誓書」を書いて提出してもらい、その「受領書」を発行しています。

これでケータイの家族割もできます。現在102組に発行し、この手法が現在25自治体に広まり、1780万人がこの制度のもとで暮らしていることとなります。来年は横浜も加わって2000万人を突破するので、国もいずれは動き出すでしょう。

その他、多様性を認め合い、人権を尊重し、男女共同参画と多文化共生を推進する条例を作りシンポジウムも開催しました。

■雨対策と下北沢の奇跡

豪雨対策としてはアメリカのポートランドに学んで、水を土に返すことで下水への負荷を減らす取り組みである「グリーンインフラ上用賀公園レインガーデン」を作りました。

下北沢の小田急線鉄道跡地の利用では、5%改革に沿って8年間にわたって100回以上の小集会・大集会をやって微調整を行いました。そして最後には反対運動も取り下げられ、9月24日に共同記者会見が行われました。この場で小田急電鉄と京王電鉄の両社長が初めて同席し、反対派も賛成派も全員拍手をし、小田急線が地下にもぐった跡地にいいものを作ろうということで新しい下北沢のまちづくりに入ることになりました。「下北沢の奇跡」と呼ばれています。

■質疑で（○質問・意見、●区長）

- きめ細かい行政に感心しました。
- 世田谷区の外からのイメージがあると思うのですが、中の人のはのんびり住んでいます。区長が変わって区政が身近に感じられるようになりました。
- 議会との関係は？
- 私は、先ほどの小田急跡地問題の反対派に押された落下傘候補だったので、関係を

作するために全会派と飲み会をしました。国会議員時代は児童虐待対策法を作るに当たって黒子に徹し、超党派の活動をまとめることができました。

それが区長になってから議会との関係にも役立ちました。胃が痛むようなこともあります。のらりくらりやりながら、今は概ね良好にやっています。

○ふるさと納税による税金の流出はいかがですか？

●100億円の税収減になっています。世田谷区は地方を大切にすることを戦略の第一に挙げていて、地方に対抗するようなふるさと納税はやっていません。いずれはこの減収が学校建築などに響いてくるかもしれません。

○都政との関係は？また世田谷の取り組みがあまり報道されない理由は？

●豊洲・築地問題は空転していますが、小池都知事とは仲良くやっています。

年に24回ほど記者会見もやっていますが・・・。世田谷区の取り組みは新聞の都内版やNHK首都圏には出るのですが、「この人は何をやろうとしているのか」といった哲学はあまり報道に出てきませんね。マスコミはトップダウン型のことが好きで、時間のかかる住民が発意していくようなボトムアップ型のことはあまり興味を持ってくれません。

みんな反対運動が好きですね。でもNoでは政治は変わっていきません。安倍政権に批判もありますが、あれはダメ、これはダメというより「～を良くします」という安倍メッセージのやり方は若い世代に受けているように思います。

○女性登用や女性支援は？

●特別職のうち教育長は女性です。どこでもやっているようなことはやっていますが取り立ててやっていることはありません。シングルマザーの創業支援などを世田谷区立男女共同参画センターラプラスの相談事業でやっています。

○また今度は世田谷に「お出かけサロン」として皆でお邪魔したいです。

.....

※今回の「サロン」は、スローライフ学会の古くからの応援団である公益財団法人世田谷区産業振興公社 参与・田中茂さん(写真左)のご尽力で実現しました。お二人とも2次回までご参加いただき、さらに議論が深まりました。著書も皆さんが買い求め売り切れるほどでした。

(事務局 野口智子・記)

